

令和 5 年度
学校関係者評価報告書

令和 6 年 6 月
昭和大学医学部附属看護専門学校

I 重点事業について

1 重点目標（1）教育 について

①取組課題

- ・専門教育の充実

【事業計画】

学習成果が達成できるように、時間割を工夫し、学生が過密にならないよう形式を検討します。

【計画の達成度】

授業は対面とオンデマンド・オンラインを併用して行い、教育効果があったと考えます。オンデマンドは授業の復習に役立つと学生のニーズがありますが、科目内容により対面授業によるグループワークが必要な場合もあるため、講義・演習方法については検討していきます。

②取組課題

- ・カリキュラムの改革

【事業計画】

ディプロマポリシーに示された能力について、マイルストーンを設定し、効果的な学修方略、評価方法等を検討し、それに基づいた教育を行います。

【計画の達成度】

2024 年度 4 月から実習担当教員制度を導入することができました。それに準じた授業計画の変更、履修系統図およびカリキュラムマップを作成し、教育課程の可視化を図りました。今回の制度導入に向け各科目の目標、方略、評価を変更し教育体制を整備しました。

③取組課題

- ・学修支援

【事業計画】

知識の総括評価を 1 回の試験で行うのではなく、形成評価を繰り返し行い学力の担保を図りつつ総括評価につなげる評価方法に変更します。

【計画の達成度】

今年度から導入した形成的評価は、教員に運用のアンケートを実施し、不明点を明確しながら教育体制の充実を図りました。形成的評価の導入は学生の学修支援にとって有効であり、今年度の 1 年次・2 年次の全員が進級できる結果となりました。

2 重点目標（2）学生の受け入れ について

④取組課題

- ・学習と評価

【事業計画】

オンライン願書受付を導入し、一般選抜Ⅱ期を廃止し、学生のニーズに合わせて入試区分や募集人数を見直します。

【計画の達成度】

今年度からインターネット出願を導入し、学生が応募しやすい環境を構築しました。一般選抜Ⅱ期は廃止しましたが、入学者 151 名を確保することができました。受験者が昨年度より減少しているため、増員を図る検討が必要と考えます。また、来年度は総合型選抜入学試験を導入するため、その運用について検討します。

ポートフォリオシステムの導入に至らず、実施できなかった。

⑤取組課題

- ・自己点検・自己評価活動の推進

【事業計画】

パンフレットや学生訪問等の方法を検証し、より当校にふさわしい学生を募集していきます。

【計画の達成度】

学生募集活動は、学校訪問・オープンキャンパス・パンフレットにて行いましたが、受験者数の増員に至りませんでした。広報活動は、受験者獲得の有効性を検証し方法や時期の見直しを図る必要があると思います。来年度のパンフレットは、学校の特徴や看護師の魅力をわかりやすい内容にリニューアルし、学生獲得に活用します。

3 重点目標（3）その他

⑥取組課題

- ・教員の育成

【事業計画】

入学前・卒後教育委員会を立ち上げ、委員会を中心に卒業生のサポート体制を構築します。

【計画の達成度】

卒業生のサポート体制は、担当していた学生の教員対応のみを実施し、委員会を立ち上げるなどの組織的な対応に至りませんでした。卒業生の退職の動向から関係性の構築などの学校として、卒後サポートができる体制の充実を図りたいと思います。

Ⅱ. 各評価項目について

1 学校経営

学校法人昭和大学の財政支援の基に、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる財務体質を備えている。予算管理については法人本部から妥当性について毎年ヒアリングを受け年間予算を決定している。また、学校組織図、会議組織図を定期的に見直し、会議運営の見直しを図っており、学校経営は組織的に行われている。

昭和大学医学部附属看護専門学校評価規程を定め、学校のビジョンおよびそれを実現するための組織目標を策定し、中間評価を実施し、後期に活かしている。責任者会議などを通じ、活動を可視化することで、チーム力を発揮した問題解決が行われている。

また、定期的に行われる法人運営についての説明会等をつうじて、法人の今後の計画・目標について、教員が十分承知する場を設けており法人の定めた計画達成に向け教職員一丸となって取り組んでいる。

2 教育課程・教育活動

卒業時に持つべき資質として、教育理念と一致した教育目標・ディプロマポリシーが設定されており、卒業時の達成度評価が実施できている。

例年のワークショップでは、科目評価についてをテーマに討議され、その結果を今年度より実施した。具体的な科目評価の変更内容は、これまでは、絶対評価を採用し、履修時間が半期の科目の場合、年度途中で不合格の決定がなされ、その後学生の学習意欲の低下につながっていた。学習成果の向上を目指し評価方法の変更を実施した。履修時間数にかかわらず全ての科目の最終評価を年度末とし、それまでの間各科目責任者は学修目標に到達していない学生に対し、補修等による学習支援を繰り返す。学習支援対象学生の学修目標達成度を測るうえで、形成評価を採用し学生の習熟度把握から適切な学修支援と評価に繋げた。

実習では、実習環境の向上を目的に実習担当教員の設置に向けた検討を進めており次年度より実施すべく準備を進めている。

3 入学・卒業対策

少子化により年々出願者が減少するなか、出願者確保に向け積極的に広報活動を実施している。

主だったものには、毎年更新する紙版の本校紹介パンフレットを制作し、希望者に対し無償で送付していることや、公式・外部 WEB サイトを含むネット上の情報提供、オープンキャンパスによる学校体験、全国で行われる説明会への参加、高校訪問等実施している。

今後は本学の強みである質の高い教育や医療系総合大学の一員としての強みを生かし、認知度向上に、社会のトレンドを取り入れた展開を図っていく。

また、質の高い卒業生を輩出する為に、低学年から学年・クラス担当で個別指導を行い、随時保護者とも面談する学習支援体制が整っており、国試合格率は卒業生も含め常に高い水準を維持している。

4 学生生活への支援

学生支援については、経済面での支援、健康面でのサポート、学習面での支援、卒業後の進路における相談支援と幅広く積極的に行っている。相談支援体制については、教員はもとよりそれぞれの相談内容に応じて専門部署が窓口となり、学生へのサポート支援を行っている。

5 管理運営・財政

事務課から予算計画や事業計画等について説明がなされ、教職員に周知されている。昨年度と継続し予算計画、年間事業計画を策定し、教員の組織に分野・委員会を設置し、在庫・予算管理を行っている。今後は更に予算決算管理及び昨年度対比による分析等の取り組みをされたい。

なお、引き続き学生や教職員等の人権・個人情報の保護については、徹底した取り組みがなされている。災害等が発生を想定した避難訓練の実施、防災マニュアルの見直しに取り組んでいる。

6 施設・設備

施設・設備については予算措置を図り毎年見直し整備されている。施設・設備の安心、安全は、確保されている。教育目標達成に必要な施設設備・教材は整っている。実習室の物品もインベントリーを行い、時代に応じた必要な教材を整えている。図書室は専任の司書おり、十分活用できている。大学の学生ホールや食堂の利用可能である。

防災については、ロビーに防犯に関するビデオカメラが設置され、被災事態を想定し備蓄品の点検が行われている。備蓄品の見直しを行い災害時に実際に必要とされる備品を配置すべく整備を進めている。

7 教職員の育成

新カリキュラムに関するオンライン研修を実施し教員全員が参加している。他校とオンラインで授業や実習の取り組みについて情報交換を行い教員に情報を提供している。

昨年度、計画されていた臨床研修制度が導入され、教員の質の向上が図られている。また、教員の研修や学会への参加が再開されたが、参加後の伝達講習会等の機会が設けられておらず、次年度は実施できるように計画的な取り組みが望まれる。

全教員が授業を公開し、授業後の評価会を行っているので今後も継続し実施していただきたい。しかし、教員が授業資料の作成や日々の授業に追われ研究活動を行う時間が確保されていないため研究活動を行えるような工夫や体制を整備する必要がある。

「教職員の育成」の評価が低いため、教員の学会・研修報告の復活やラダー評価などの強化を優先事項として取り組んで欲しい。

8 広報・地域活動

オープンキャンパスや学校説明会の開催案内、入学式、卒業式、戴帽式等の式典を適宜ホームページに掲載し活発に情報を発信している。

近隣の小学校への授業協力は継続しているが、コロナの終息により依然行っていたボランティア活動や地域への活動が徐々に再開されている。地域への広報・貢献・奉仕活動・連携として、大学の行事を通じて地域との連携を強化し継続して欲しい。

教職員が意識を高め地域に何が必要とされ、何ができるのかを考え学生が主体的にボランティア活動などができるような環境を整えるなどの学生支援を強化して欲しい。

以 上